

No.44

2005 冬季号



CONTENTS

第16回 2004東京aaca景観シンポジウム		3
パネルディスカッション		別冊
コーディネーター	芦原 太郎	
パネリスト	鈴木 博之	
	倉田 直道	
	林 望	
シンポジウムに	工藤 康博	4
参加して	垣内 泰三	5
時代の華一輪	可児 才介	6
トーク	桜井 淳一	7
	高松 智子	8
委員会だより	会員交流委員会	9
	会報委員会	2
薈賞		10
トピックス		11
事務局だより	事務局	12

社 団 法 人

日 本 建 築 美 術 工 芸 協 会

会員の皆様へ

平成16年は 近年になく多数の台風や地震が襲来した年でしたが当委員会でも 玉見 満委員長 が昨年5月 薫風の嵐とともに彼の地に先立たれました。

玉見委員長は 協会設立当初より「緑の下の力持ち」として 芦原義信先生・内井昭蔵先生の片腕として 協会の発展に尽力され 理事・役員のみならず 会員の皆様からも 玉ちゃん、玉ちゃん と 親しまれ 慕われておられました。

シンポジウムはじめ協会の諸行事への積極的な姿勢はもとより、委員長として 協会と会員のきずなとしての会報の発行のため 持ち前のユーモアと頑固なほどの責任感で委員会を運営され委員ひとりひとりに 「和と責任」とは何か 知らしめてくださいました。

芦原・内井先生と二本の大黒柱を失った協会では 協会理事としてこれからますます実力を発揮され協会のさらなる発展のため 多くの方々から囑望されておりましたが 残念でなりません。

ここで あらためて玉見さんのご冥福を お祈りしたいと存じます。

広報委員会は本年総会において 会報委員会と名前が変わりましたが 新たに選任委嘱された委員は玉見さんの遺志を受け継ぎ 新たな意識のもと協会と会員とのきずなである会報「aaca」の編集、発刊を続けてゆく所存であります。今後とも会員の皆様のご支援ご鞭撻のほど よろしくお願い致します。

なお 新委員の人事・編集方針の策定 など 諸事に時間を要したため 会報の発行が遅れましたことを改めて お詫び申し上げます。

これからの 会報編集方針 について お知らせ いたします。

本号をごらんいただいていたでしょうか、 変化を感じていただけましたか？

表紙を除いて A4のリーフレットといたしました、会員の皆様は お手近のファイルを ご用意 頂き ファイリング方式で保存をお願いいたします。 不要な記事は ご自由にご処分を。

基本編集方針は『会員参加型 会報』とすることです。 会報の充実は会員の皆様の積極的な投稿に懸かっています。 会員の活動・作品の紹介、個展および出展される展覧会の案内、法人会員の企業案内など、1500部の会報が 協会から会員は勿論 関係官庁・団体に配布されます。

さらに会員の皆様は投稿された1頁をコピーの原稿として使用され 会員皆様の活動や作品の「PR」に役立てることも可能です。 奮って投稿をお願いいたします。

投稿方法は次のとおりです。

事務局に所定のフロッピーディスクを用意してあります。 必要な方はご請求ください。

電子メール、手書きの原稿 なんでも結構です。 写真類は郵送でお送りください。

A4版1枚に納まる内容で お願いいたします。 会報委員会で編集もお手伝いいたします。

尚 印刷代金として 別途所定の料金を お振込みください。

料 金 表 (円)		カラー	モノクロ	
個人	正会員	A4版 1 枚	30,000	20,000
	非会員		50,000	40,000
法人	正会員		50,000	40,000
	非会員		80,000	60,000

A4版紙面の	1/2 の場合は	60%
	1/3 の場合は	40%
	1/4 の場合は	30%

発行予定は 1月末/4月末/10月末 の予定です。 掲載月を指定して頂きます。 原稿の到着・料金の振込みを確認してから編集を始め 発行前に内容のご確認を頂いて発行致します。

尚会報の内容として不適当な記事はお断りいたします。

そのほか詳細は事務局へ お問い合わせください。

会報委員会



aaca会員
株式会社 三菱地所設計
KUDO YASUHIRO

工藤 康博

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-2-3 富士ビル
Tel. 03-3287-5808

「歴史的な建築は街を美しくする」というタイトルに引かれ、このシンポジウムの裏方を引き受けた。テーマに相応した案内ポスターの作成が最初の仕事であった。デザイナーと何案か作成した。しかし、ひとつしっくりしないまま時間が過ぎた。そんな時、aaca専務理事の中島昌信さんが今年の「建築家のスケッチ展」に向けて描き終えたばかりの丸の内の数枚のスケッチを拝見した。その中の一枚に「明治生命館」があった。なんとも言えない力を感じた。即座に、その使用をお許し頂き、あの印象深いポスターが完成した。

次の心配は、「テーマは良いが果たして聴衆が集まるか」であった。それは杞憂に終わった。受付での長い列を見て一安心。参加者の多くは会員とその関係者及び建築学科を中心とした学生であったが、中にはたまたま丸の内を散策に来て会場前でシンポジウムを知り、入って来られた老夫婦もおられた。会場は立ち見が出るほどで今回のテーマに対する、関心の高さを改めて知らされた。

わが国ではこれまで、ともすれば経済の豊かさを優先した建物の建替えが行われてきた。

現在、丸の内では前回のシンポジウムで取り上げら

れた日本工業倶楽部会館と明治生命館の保存や再現による活用のほか、東京駅を創建当時の姿への復元や、三菱一号館の復元計画が発表されるなど歴史を継承した街づくりが進められている。

また、歴史的建造物が在る街だけではなく、普通の街において昔の街並みを取戻そうとじているところがあると聞く。景観法の制定などにより、今後、これらの動きは増すと思われる。

社会経済の低迷や人口減少時代の到来など先行き不透明ななか、人々が、自らの原点を見直すことや真に豊かなものを求めていることの表れのように思える。

このような意味において、今回のシンポジウムは非常に時機を得たもので、パネリストの皆さんからも非常に示唆に富んだお話を伺うことができた。

このような、シンポジウムを裏方としてお手伝いできたことは私にとって幸いであった。



シンポジウムに参加して



aaca会報委員
セルク株式会社取締役
KAKIUCHI TAIZOU

垣内 泰三

〒108-0074 東京都港区港南3-8-1 森永乳業港南ビル
Tel. 03-5463-8081

大変素晴らしい機会でした。改修過程にある歴史的建築物、それも寺院とかではなくて丸の内で活躍中もの、を見学し同時にその「保存」をテーマに第一線の方々のお話が聞けて、オマケに懇親会まで付いて。この機会を逃す手はありません。建築主、設計、施工者、三拍子揃った理解と協力、ここまでご支援頂けるのも稀有で有難いことなのですが、同時にaaca側の誠実な熱意が通じてこんなご協力も頂けたのであろうと思います。aacaの実績としても誇り得るものであり、嬉しくなりました。関係各位のご努力に感謝しないわけにはいきません。

パネルディスカッションは、パネラーとコーディネーターの四先生のそれぞれのお立場の違いの持ち味が出て、いわば配合の妙がありました。結論こそ出なかったのですが、それだけにテーマの奥行きが感じられ、問題点のデッサンがきっちり出来上がりつつありました。

「保存」や「再現」は、様々な条件もあり難しい。新しい高層建築に、木に竹を接いだように旧館が張り付いているような、と言っては言い過ぎかもしれませんが少々痛々しい感じのものも見受けられるように思います。今回改めてこのプロジェクトを拝見しましたが、周囲の街区ごと生々と再生していく様子がよく分かりました。新しい部分と古い部分がどのように繋がっているのか、いないのか……、間にあるのは「道路」ではないようだが……、連続と区分に違和感がない、「保存」も本格的になって来ているんだな、というのが感想です。

ディスカッションにもありましたが、明治生命館は明治建築の集大成、江戸クラフトマンシップ最後の結集であったとのこと。これが竣工した昭和一ケタころは、建築は混沌としていて、それこそ「木に竹を接いだ」ようにないわゆる「帝冠様式」（洋風コンクリート造に日本の瓦屋根を載せたもの、私自身嫌いではないんだけど）が多く見られるころです。明治維新以降、洋に和の融合が試みられ、建築家の苦闘の時代だったんでしょ。

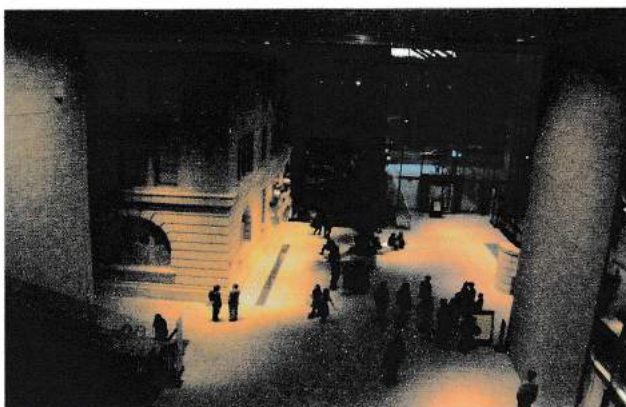
岡田信一郎先生もこれ以前は歌舞伎座など、コンクリート製和風建築を手がけていらっしやる。一方で明治生命館より少し早く出来上がった中央郵便局は一見非常にモダンですが、あのタウトが「日本の建築！」と絶賛したと云うんですから、素人には解りにくい。柱と梁と白い壁の連続は、桂離宮にあい通じるんでしょうか、外人さんでないと解らないかもしれない歴史的建築です。

丸の内は原っぱだった……大名屋敷が並んでたのが火事で燃えてしまってほとんど建物らしきものも無かったとは今回初めて知りました。買い手がつかないで三菱さんは政府に頼まれたらしい。うまいこと手に入れたんじゃないか、と勝手に誤解してたのは私ばかりではないでしょう。その原っぱに一丁倫敦、東京駅、中央郵便局に明治生命館。そして今また丸ビル、明治安田生命館の再開発、保存です。重層的に、連続的に、そして時には非連続的に再開発が行われてきたわけで、ある意味では「木に竹を接ぐ」どころでない、様式と思想のせめぎ合いみたいところなんですね。

明治生命館に入れば、GHQにも使われていたと云う雰囲気そのままに、やはり高級で重厚。しかしながらこれは、はるか昔に亡くなった私の親父が、どっかその辺りから出てきそうな雰囲気でもあります。今にもドアから出て来るような気がする。自分の内なる日本、という感覚からすればある意味で、懐かしいというのに近いでしょう。

「木に竹を接いで」その上にまた「木を接いで」みたいに繰返すのが歴史の展開であるのかもしれない。

文化は破壊と非連続、融合を繰返し、時間のみが非連続をも内なる文化に変容させていく、そんな感じがして来ます。その内なる文化を思うことこそ、それは極めてプライベートな事柄かもしれませんが、「保存」としての最重要なテーマであり、また最大の原動力にもなり得るものなのでしょう。





aaca理事
大成建設株式会社
常務執行役員設計本部長
KANI TOSHISUKE

可児才介

東京都新宿区新宿 1-25-1 新宿センタービル
TEL 03-3348-1111

持続可能な街づくり

今年の夏の暑さは尋常ではなかった。一方で今年の冬は暖冬だと言われたのに雪の量は例年より多いという。

かつて夏暑く、冬寒いという当たり前だった気候がどんどん変化し続けている。温暖化の影響で逆に南極の温度は極端に下がっているという。地球全体のバランスが狂ってきているのである。

かって2万年前の氷河期には地球の平均気温は現在より8度低かったという。それが約2万年かけて8度上がって来た。そしてこの千年の間は殆ど気温の変動はなかったのだが、産業革命以降再び上昇を始め、この100年で0.6度急に上昇した。また米国のNASAは北極の温度がこの10年で1.2度も上昇したという調査の結果を発表した。現在の状況が続くとすれば、専門家が描く最悪のシナリオでは100年後には世界の平均気温が最高で3.5度ほど上がって、世界の海面が最高で1mまで上昇する。また世界の海流の動きが大幅に変化してさらに異常な気象が出現するという。地球の温暖化現象の進行は極めて深刻である。

私たち建築に携わる人間は厳しくこの現状を見極めて行く必要がある。

省エネや省資源、長寿命化といった技術面での取り組みは既に広く行われており、成果も上がりつつある。しかし私達の作る建築が持続可能であるためには、社会的な仕組みを作り上げることも一方で必須である。折角建てられた立派な町の体育館が結局使われず税金の無駄遣いだと批判されるということがよく起こる。もしその施設が有意義なものであれば、使われるための仕組みが必要である。使い易い料金体系やサービスシステム、親しめるクラブ的な組織など地域社会に溶け込み易いシステムが建築を造る前に構築されてなくてはいけない。そうすることでその施設は大切に長く持続的に使われていくのである。

建築の集合体である街も同様である。私は一つ一つの建築に「賑わい」という概念が必要だと思う。

英語にないこの「賑わい」という言葉には「喜び」や「感動」といった人の心の動きが感じられるが、同時に必要な様々な仕組みを備えていて初めて成立するものでもある。「賑わい」を単体の建築に造り出せればそれが街に影響を与え、街に「賑わい」が育ち、持続可能な街、つまりサステナブル・タウンとなることができるのである。





「ユニバーサルカラーインスティテュート」インターナショナル
Design Color Communication 総合研究所代表
総合色彩プロデューサー

TAKAMATSU NORIKO

高松智子

〒 950-0862 新潟市竹尾2-23-3

TEL. 025-274-6437

真の实用色彩調和とは

身の周りに色のないものはないといっても過言ではないでしょう。色は私達の生活の様々なシーンに影響を与えています。色彩の果す役割や重要性が取り上げられ、色彩ハーモニーによる美的センスやテクニックが要求される今日、ファッションやメイク、インテリア、建築など専門分野での色彩コーディネーターの要望も増えています。

今まで色を決める作業は殆ど個人の主観的嗜好や趣味やセンスに頼っていたのではないのでしょうか？

何故この色にはあの色なのかという説明が出来、納得していただけることがカラーコーディネート上では大変重要なことです。

色はどの色も一色では皆美しい。配色されることで美しい・美しくない、快・不快も生じてしまいます。

この色の組み合わせの善し悪しこそがカラーコーディネートが成功するか失敗するかのキとなるのです。

ではどうしたら調和した色の組み合わせを客観的にシステムチックに選ぶことが出来るのでしょうか。

1928年、アメリカの故ロバート・ドア博士により発見され、科学的に体系化された配色調和・不調和の理論『ロバート・ドアメソッド®ブルーベース/イエローベース』は、自然界に存在する一体の造形物は、それに含まれる青と黄の色素の物理的比重によりブルーベースカラーか、イエローベースカラーの2つの色群に分けられ、同じグループに属する色同士は何色配色しても調和しあい、別のグループに属する色とは調和しないという配色調和・不調和の原理原則を基にした实用色彩調和システム®です。

長年の調査・研究の結果、パーソナリティやライフスタイル、色の嗜好性とベースカラーとの関係性もこの原理に沿っていることが判明しています。

70数年の実績をもつ实用色彩調和システム®は、衣・食・住の生活シーンから環境・ビジネス・産業シーンまで幅広く応用・活用され、快適な色彩環境の実現に貢献しています。



ブルーベース



イエローベース



aaca会員

(有) 櫻井美術鑄造

代表取締役

SAKURAI JUNICHI

櫻井 淳一

〒 174-0063 東京都板橋区前野町6-30-18

Tel. 03-3960-0941

東大寺大仏鑄造について

青銅鑄造技術はおよそ紀元前3500年～紀元前3000年ごろメソポタミア地方にて確立されたと伝えられている。そこから一方はヨーロッパへと、一方は中央アジアをへて東アジアに伝えられ、中国大陸、朝鮮半島をへて日本に伝えられて来たのは日本の弥生時代中期のころと言われている。

世界最大の大きさを誇る奈良東大寺大仏は聖武天皇の命により745年鑄造を開始した。

あらかじめ固めてある基礎の上に直に大仏像の原型を鑄造時の高温に耐えられる塑像で作られた。

一体鑄造では困難なため全体を横に八段に割り振る目安を付け下部から順に鑄造した。

一段目の鑄型も一体型取りをするのではなく縦割りにし数個の鑄型に分割した。鑄型製作後、薪・炭で鑄型を乾燥させ塑像原型から鑄型を外す。その後大仏塑像原型表面を流し込む金属の厚さ分、形に合わせて削り取る。ここで外鑄型、中鑄型の完成に成ります。

外・中鑄型共に薪・炭で焼成させ水分を取りのぞくと共に鑄型の強度にも成ります。この方法を惣型(そうがた)と言います。

出来上がった外鑄型を元の位置にもどし、外鑄型を固定するために綱・棒(丸太)を使用したと思います。さらに外鑄型の回りに盛り土をして突き固めて鑄型が鑄造時の湯の流れの圧力で割れないようにします。盛り土は鑄型より少し高くします。

次は地金の熔解です。熔解炉は耐火粘土とレンガ状の物を使用したと思います。

熔解炉は円柱のように作り、上から燃料、次に地金と交互に入れ人力のタタラファイゴで風を送り熔解しました。熔解され溜められた地金は桶で鑄型に鑄込(いこ)まれた。

鑄造し終わった鑄型は冷めるのを待ち次の上段の仕事に掛かるわけです。この工程を八回繰り返し鑄造作業の終わりです。その後盛り土、鑄型バラシを上から順にくずすように作業を行いました。

この間3年間で作業を行ったと記されております。

鑄造の次は欠陥直し、および仕上げ作業を行いました。仕上げた大仏は最後に渡金を塗し黄金の大仏の完成に成るわけです。

その間約12年間必要でした。



牧 神
(ブロンズ)

第五回 「AACA 建築と文化を語る夕べ」 開催しました

会員交流委員会では、去る10月8日(金)夕方、日本橋室町にある「アトリエユニオン東京ショールーム」にて「建築と文化を語るゆうべ」を開催致しました。

第五回は、講師にファニチャーモデラーの宮本茂紀氏を迎え、『変遷するモノ作り』というテーマでご講演頂きました。日本ではまだ数少ないモデラーとして、世界を飛び廻って活躍を続ける宮本氏。モデラーとして建築家やデザイナーの作品を具現化していく一方、歴史的な家具達の修復から、新分野での製品開発への取組みまで、氏の活躍の場はとどまる所を知りません。

今回は、ご自身の少年時代・修行時代にまで遡りながら「日本のモノ作り」の変遷についてお話下さいました。

氏の溢れんばかりの好奇心・探究心が窺えるエピソードなども満載。

あいにくの大雨ではありましたが、質問も飛び交い、なごやかな「語る夕べ」となりました。



■宮本茂紀

1937年生まれ。

1953年齊藤椅子製作所(東京)に徒弟に入る。

職人として 高島屋工作所(東京)・三越製作所(大阪)・内外木材(大阪)・木島木材工芸(札幌)を経て、1966年椅子開発試作工房として五反田製作所を設立。以来椅子を中心に、宮内庁、迎賓館の家具修復、国内外家具、車両メーカーの開発生産などに拘る。建築家、デザイナー、美大生等との研究開発にも取り組む。全日本椅子張り連合組合専務理事、厚生労働省中央技能検定委員。

会員交流委員会では、会員交流のため以下の企画を実施しております。

「建築と文化を語る夕べ」

開催記録	開催日	講師	所属
第一回	4月26日	梶屋 正氏	イリヤ シニアプロデューサー
第二回	5月28日	森 大介氏	安井設計 設計部
第三回	6月 9日	赤尾健蔵氏	竹中大工道具館 館長
第四回	7月 9日	寺本昌志氏	メックデザイン インテリア設計部
第五回	10月 8日	宮本茂紀氏	ファニチャーモデラー
第六回	1月27日	佐藤英嗣氏	久米設計 執行役員 設計本部 本部長
予 定	3月 8日	亀井忠夫氏	日建設計 設計部門副代表
	4月13日	六鹿正治氏	日本設計 副社長

「交流講演会」

開催記録	開催日	講師	所属
第一回	10月22日	遊佐謙太郎氏	三菱地所 都市計画事業室 副室長
第二回	3月25日	山田幸夫氏	久米設計 専務取締役
第三回	7月14日	芦原太郎氏	芦原太郎建築事務所 代表取締役
第四回	9月29日	前田忠昭氏	東京ガス 常務執行役員資源事業本部長
第五回	11月10日	佐野吉彦氏	安井建築設計事務所 代表取締役社長
第六回	12月10日	管 順二氏	竹中工務店 東京本店設計部設計課長
予 定	2月22日	可児才介氏	大成建設 常務執行役員設計本部長

第12回
造形賞受賞作品
※今日より第2部へ募集

いらかしよ

第13回

瓦屋根・景観等設計
実施例コンクール

ビエンナーレ **賞**

作品
募集

私どもは、この素晴らしい素材
「粘土瓦」にさらなる建築美を求め、
隔年ごとにコンクールを開催しております。
既存概念に捉われず、
粘土瓦を自由な発想で活かした力作を
お待ちしております。

募集要項

■ 課題

国内産粘土瓦を屋根又はその他の部位に使用した建築設計や環境デザインの優れた実施例で、応募時点において完成後1年以上経過している建物及び構造物で、「第1部」「第2部」の部門別に審査します。

- 第1部……………住宅（一戸建、併用住宅、集合住宅等）
- 第2部……………一般建築（屋根以外の新分野仕様・環境デザイン等を含む）

建物の様式、大小、瓦の産地、形状等は制約いたしません。
すでに発表されている作品でも結構ですが、過去の受賞に応募されました作品の再応募はできません。

■ 募集対象

設計事務所及び設計者（第2部の環境デザインに関しては、設計事務所・設計者以外の応募も可）

■ 募集期間

平成17年1月1日～平成17年3月31日（木）（3月31日消印有効）

■ 提出物

応募カード、設計図面、建物及び構造物のカラー写真
（応募カードは受賞事務局にご請求ください。）

審査委員

- 委員長 櫻 研吾（日本建築学会）
委員 岸 和郎（日本建築家協会）
渡部 和生（日本建築士会連合会）
小串 伸春（日本建築士事務所協会連合会）
芦原 太郎（日本建築美術工芸協会）（他7名）

発表

平成17年6月～7月
（毎日新聞、日経アーキテクチャ、新建築、日本屋根経済新聞に
発表すると共に応募者に連絡します。）

賞

● 金賞（2点）

国土交通大臣賞（第1部……住宅）

経済産業大臣賞（第2部……一般建築）

賞状及び副賞100万円

● 銀賞（2点）

賞状及び副賞30万円

● 銅賞（1点）

賞状及び副賞20万円

● 特別賞（1点/毎日新聞社賞）

賞状及び副賞20万円

● 景観賞（1点/日本屋根経済新聞社賞）

賞状及び副賞20万円

● 佳作（10点）

賞状及び副賞5万円

表彰式

平成17年8月26日（金）東京田町の建築会館にて実施いたします。
（金・銀・銅・特別・景観・受賞者はご出席願います。）

展示会

平成17年8月26日（金）～8月31日（水）まで
建築会館（建築博物館）にて入賞作品の展示を行います。

応募作品提出先

受賞事務局 〒444-1323 愛知県高浜市田戸町一丁目1番地1
全国陶器瓦工業組合連合会高浜事務所内
TEL 0566-52-1200 FAX 0566-52-1203

新入会員紹介

正会員 (上段 氏名 自宅住所 電話 下段 勤務先 住所 電話)

押山郁夫	〒 401-0003	山梨県大月市振岡町ゆりヶ丘 5-7	TEL 0554-23-2650
アトリエアーム	〒 409-0161	山梨県大月市猿橋町小沢字下の田 83-84	TEL 0554-23-2980
石岡俊二	〒 153-0041	東京都目黒区駒場 3-5-9	TEL 03-3467-0549
芦原建築設計研究所	〒 150-0031	東京都渋谷区桜丘町 31-15 住友生命渋谷ビル	TEL 03-3463-7461
田子和則	〒 370-3512	群馬県群馬郡群馬町西国分 186-2	TEL 027-372-1025
㈱ホームスト	〒 206-0033	東京都多摩市落合 1-47	TEL 042-310-1300
桜井淳一	〒 174-0063	東京都板橋区前野町 6-30-18	TEL 03-3960-1853
㈱桜井美術鑄造	〒 174-0063	東京都板橋区前野町 6-30-18	TEL 03-3960-0941
井浦郁夫	〒 113-0031	文京区根津2-23-13	TEL 03-3821-5567
(有)双真堂表具店	〒 113-0031	文京区根津2-23-13	TEL 03-3821-5567
横河 健	〒 151-0053	渋谷区代々木5-7-11	TEL 03-3485-4855
横河設計工房	〒 224-0041	横浜市都筑区仲町台1-33-1	TEL 045-949-4900

法人会員 (上段 会社名 住所 電話 下段 代表者 担当者)

㈱豊田商店	〒 145-0067	東京都大田区雷谷大塚町 9-13	TEL 03-5754-2901
代表取締役社長	豊田重昭	取締役営業推進部長	佐藤 誠
㈱もちひこ	〒 421-3105	静岡県庵原郡由比町屋原 340	TEL 0543-75-3161
代表取締役社長	望月伸保	総務部	小林麻衣子
神綱ノース(株)	〒 315-8523	茨城県新治郡千代田町上稲吉 1758-1	TEL 0299-59-4111
代表取締役社長	野原伸一	業務部総務	内田賢治
大坪電気(株)	〒 130-0014	東京都墨田区亀沢 1-14-5	TEL 03-3625-7111
代表取締役社長	大坪政次	電設事業部営業部	有泉政幸
三菱地所(株)	〒 100-8133	東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル	TEL 03-3287-5398
代表取締役社長	高木 茂	都市計画事業室副室長	遊佐謙太郎
三菱マテリアル建材(株)	〒 164-8721	東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー	TEL 03-5365-2335
取締役建材事業部長	窪山 潔	建材事業部営業部販売推進グループリーダー	本田宣之
三協アルミニウム工業(株)	〒 164-8503	東京都中野区中央 1-38-1 住友中野坂上ビル	TEL 03-5348-0360
取締役常務	小山智克	東京本社営業推進部	二本柳 敏
㈱日本アロフ	〒 113-0024	東京都文京区西片 2-17-2	TEL 03-3818-2371
代表取締役社長	雨宮良友		雨宮良友

日本建築美術工芸協会 各委員会名簿 (2005年1月現在、順不同・敬称略)

総務運営委員会

中島昌信(専務理事)、宇津野和俊(委員長・情報委員会委員長)、立石博巳、松本哲夫、菊竹 雪、村井久美、佐野吉彦、倉本真弘(事業委員会委員長)、日高單也(調査研究委員会委員長)、吉村忠雄(会員交流委員会委員長)、石田真人(会報委員会委員長)、

事業委員会

中島昌信(専務理事)、倉本真弘(委員長)、中川幸成(副委員長)、吉村忠雄、三木経一郎、堀 奉博、菅田カツ子、片山幸則、中村清美、岩崎治保、石氏克彦、席屋 正、

調査研究委員会

近江 栄(担当理事)、日高單也(委員長)、坂上直哉(副委員長)、小林治人、中島三枝子、石井博美、山本 誠、露口典子、道家駿太郎、小野行雄、七字祐介、南 三一郎、

会報委員会

石田真人(委員長)、垣内泰三、北村孝昭、瀬川秀之、竹生田 正、中村弘子、長谷川 亨、本田宣之、山崎輝子、

情報委員会

宇津野和俊(委員長)、石井博美(副委員長)、坂上直哉(副委員長)、武田有左、露口典子、荒井里織、村井久美(総務運営委員会)、片山幸則(事業委員会)、長谷川 亨(会報委員会)、

会員交流委員会

吉村忠雄(委員長)、

設 計部会

建 築部会

メーカ一部会

岩崎治保(部長)、森 大介(副部長)、佐藤英嗣(副部長)、境 静也(副部長)、

田平 徹(部長)、手島清治(副部長)、

片山幸則(部長)、田中朝好(副部長)、蔵田 寛(副部長)、大下清和(副部長)、上原政幸、

土屋照雄、本田宣之、山川 久、森原 毅、立石博巳、佐藤 誠、小川珠実、山森時男、

事務局だより

- 平成16年度協会活動も第3四半期を経過しました。
次により協会理事会の開催と案件をお知らせいたします。

(開催期日)	(議題)
第1回(4/27)	1、平成16年3月理事会議事録承認 2、総会提出議案承認 事業部会・新年度事業計画・新年度予算(案) 他
第2回(5/10)	1、総会運営等について 他
第3回(6/22)	1、前回理事会議事録承認 2、16年度4、5月予算執行状況報告 3、平成16年首都圏シンポジウム企画並び実施計画の件 4、委員会運営の件 他
第4回(7/21)	1、前回理事会議事録承認 2、16年度6月予算執行状況報告 3、シンポジウム中途報告 4、第14回AACA賞・第3回芦原義信賞作品募集の件 5、後援名義使用の件 3件 他
第5回(9/29)	1、前回理事会議事録承認 2、16年度7、8月予算執行状況報告 3、調査研究委員会 京都北山景観シンポジウム実施の件 4、後援名義使用の件 3件 他
第6回(11/19)	1、前回理事会議事録承認 2、シンポジウム実施の件 3、本年度予算決算見込の件 他
第7回(12/22)	1、前回理事会議事録承認 2、総務運営委員会報告の件 3、平成16年度11月執行予算報告 並び 収支決算見込の件 他

- 平成17年度通常総会開催
平成17年度通常総会は 平成17年5月17日(火)開催を予定しております。

発行 社団法人 日本建築美術工芸協会
〒108-0014
東京都港区芝 5-26-20 建築会館6階
Tel 03-3457-7998
Fax 03-3457-1598
Url <http://www.aacajp.com>
E-mail info@aacajp.com

編集 会報委員会
石田 真人 垣内 泰三 北村 孝昭
瀬川 秀之 竹生田 正 中村 弘子
長谷川 亨 本田 宣之 山崎 輝子
事務局
伊藤 留雄

制作協力 中栄印刷株式会社

